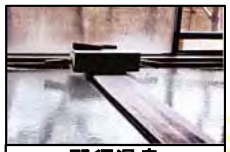
道の駅「那須高原友愛の森」　栃木県那須町

○ロイヤルリゾートである那須地域を国際観光地とすべく、外国人観光客のニーズにあったサービスの提供など「道の駅」の機能を強化　（平成32年外国人宿泊数の目標：約5万人）
○「道の駅」の年間利用者は、目標の50万人を超える約67万人（H25）。今後は、那須地域の観光情報を集約・提供等を実施することにより、年間利用者100万人を目指す。
○東日本大震災の教訓を活かし、地域住民のみならず観光客や県外からの避難者のための防災拠点化

＜地方創生拠点としての機能＞
ゲートウェイ型

インバウンド観光 インバウントニーズに応えるサービスの提供	観光総合窓口 那須観光の玄関口	地域福祉 住民サービスのワンストップ提供	防災 観光客のための防災拠点化

茶臼岳


那須温泉

那須エリアには多くの観光地が点在

「道の駅」
那須高原友愛の森

那須サファリパーク

那須りんどう湖
LAKE VIEW

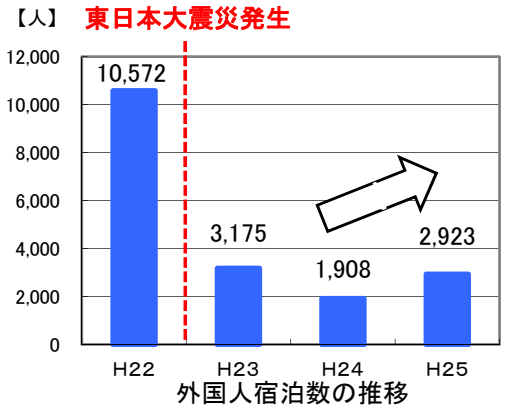
篠工芸教室

台湾旅行会社との商談会

関東と東北を結ぶ東北道からの近接性などにより、那須エリアのゲートウェイとして機能

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
那須高原友愛の森	栃木県	那須町	県道17号	既設	平成9年	一体型

東日本大震災の際、情報館を総合案内所として活用



東日本大震災発生後、外国人宿泊数が減少していたが、平成25年から増加傾向。平成26年は、6月末時点で昨年度を上回っている状況。

＜提案の先駆性・ポイント＞

■国際観光地化を図るため、平成26年6月に「那須インバウンド協議会」を設置し、外国人向けの観光DVD制作や東アジア（台湾等）への誘客宣伝を実施
■那須温泉や那須サファリパークなど、各種レジャー施設が集積する那須地域の観光情報を集約し提供
■観光客と住民の交流に資する体験教室（県指定伝統工芸品：那須の篠工芸等）を開催
■東日本大震災の際、被災者の総合案内所を駅内に設置した経験を活かし、地域住民のみならず観光客や県外からの避難者へ必要物資の提供をする「防災館」を整備

＜実施内容＞

○外国人観光案内所、免税店の配置や無線LANの整備
　※外国人観光案内所はカテゴリ1から3へステップアップを目指す
○旅行業の登録、観光協会の本部機能設置
○自転車の町としてサイクルステーションの設置
○自然エネルギー等を活用した「防災館」の設置
○役場支所等の地域住民サービス機能の設置